

風水害から身を守るUNION

毎年台風のもたらす豪雨などにより、急傾斜地の斜面崩壊や山崩れ、崖崩れ、土石流、堤防の決壊などによる貴い人命や、家屋の倒壊・流失・浸水などの被害が報じられます。

被害を最小限にとどめるため、万全の態勢を整えましょう。

台風が近づいている時は、テレビ・ラジオ・防災行政無線などにより各種の注意報・警報などの気象情報が放送されますので十分注意しましょう。

災害により住宅などに危険が迫った時、市長から避難勧告などが出された時は、速やかに指示に従ってください。また、周囲の状況から危険を感じたら自主的に近所、



避難するとき

隣り同士協力し合い早めに避難をしてください。

避難に当たっては活動しやすい服装で、あわてず落ち着いて行動し、安全な避難経路を選び老人・子供・病人や身体の不自由な方のいる家庭では早期に避難をしましょう。

第4回 市民フォーラム

期日 8月18日午後2時～4時
会場 文化会館小ホール
基調講演「生涯学習振興とまちづくり」

講師 畑 潤氏

(都留文科大学助教授)

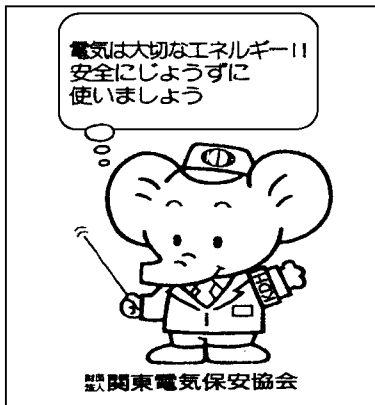
提言者

川上長明氏 (21世紀クラブ)

上野陽子氏 (地域推進委員)

渋谷美和子氏

(つる子どもまつり実行委員会)



関東電気保安協会

問合せ S A N T I キャンパス
ワン都留を創造する市民の会
事務局 奥 隆行
☎(43)3132

健全育成シリーズ④

遊びの効用と課題

現在四十歳後半の大人が少年時代の思い出を語る時、話題は決まって数々の遊びの思い出で、学校での学習に関わる問題は貧弱であります。野山を駆けめぐり、カエルを捕まえ、トンボを取り、ホタルを追い、魚を取り、メダカをすくい、カニを捕る。

数人集まれば、隠れんぼ、鬼ごっこ、ままごと、学校ごっこ、電車ごっこ、お手玉、メンコ、ビー玉、竹トンボ、箱庭づくり等々そして、

それらの遊びに伴う失敗談、たんぼの水を止め、中にいたどじょうを捕っておおいばり、翌日職員室で大目玉。喧嘩、仲間外れの事など、昔の子どもは毎日が遊びだけで過ごしたかのようです。

しかし、このように少年時代遊びを中心として成長した大人こそ、戦後の厳しい社会情勢の中で、たくましく生き、我が国の今日を築く力となった人々です。それでは子ども時代の遊びには心豊かで、たくましく生きる人間に成長するための要素、効用があるのでしょいか。

子どもが種々様々な遊びに没頭している様子をじっくり観察してみましよう。

子どもの顔つきや態度には、豊

かさ、楽しさ、自由さ、新鮮さが溢れ、夢中になって、作る、見る、調べる、集める、触れる、試す、探す、整理する、育てるなど意欲的に体験学習を自らの力で行っていますし、友達との遊びの場合は、自己を適切にコントロールし協調していますし、積極的に意志を表現しているはずです。

このように子どもの世界で展開されている様々な遊びは、子どもにとって五感の全てを使った体験学習、すなわち「遊び」なのです。

子どもたちは、こうした様々な遊びを通してごく自然に、社会的、自然的な事物、事象を認識すると同時に、社会や自然への関心、観察力、表現力、集中力、自制力、忍耐力、自治力、発想力、創造力、判断力、思考力、実践力、探求心、追求心、好奇心、社会性、協調性、積極性、そしてまた感性(価値あるものに気付く感覚)、情操(価値あるものを求める態度)などが育って行くのです。

昔の子どもは、多様で豊富な遊びをすることによって、これらの能力・技能・態度を体得し強化していたことになりま。いいかえると、自立への基礎をしっかりと養っ



ていたわけです。体得した力と質問とがバランスよく調和し、知恵となり、応用力あるたくましい大人に成長したのだと思います。

さて現在の子ども達は、児童数の減少や遊びを制約する社会環境の中で育っています。従って遊びの欠落と同時に、遊びの中で自然に育つべき能力や態度が欠落してきていると言われています。そうした欠落、または弱化した部分の補いをどうするかが今日の教育的な課題となってきたわけです。

学校教育においては、指導要領の改訂によって一・二学年に生活科が導入され、意図的に目的のある体験を与え課題解決に迫ろうとしています。解決にいたるには道は遠いように思われますが、皆さんはどうお考えでしょうか。